

## 明治安田生命 防災に関するアンケート調査を実施

**震災対策に“黄色信号”再点灯！「特に何もしていない」がトップに再浮上！  
大地震で交通機関がマヒしたら…「帰宅難民」が4人に1人、首都圏は4割以上！**

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 松尾 憲治）は、防災の日（9月1日）を前に、防災に関するアンケート調査を実施しましたので、ご報告します。

### 1. 地震への不安と対策

- やっぱり「地震」が最も不安！ダントツの86.8%、2位は「集中豪雨・土砂災害等」
- 喉元過ぎれば熱さを忘れる？震災対策を「特に何もしていない」が「防災グッズを準備」しているを再び上回り、トップに！
  - ・ 不安な自然災害は「地震」（86.8%）「集中豪雨・土砂災害等」（56.8%）「落雷」（48.1%）
  - ・ 震災対策「特に何もしていない」（46.3%）と半数近く。「防災グッズの準備」は2位に転落
  - ・ 節約志向は防災グッズの費用にも波及？平均費用は「7,306円」と21.0%の大幅減少！

### 2. 依然進まぬ防災対策

- 大地震で交通機関がマヒ！「帰宅難民」は4人に1人、女性が3人に1人、首都圏は4割超！
- ゲリラ豪雨対策も無防備？「ハザードマップ」は8割、「指定避難場所」は6割が知らず！
- 「隣近所」を「頼りにしたい」が約半数、でも「ほとんど知らない」！
- やっぱり「家族の安否」が最も心配。でも今年も8割が「連絡手段」「集合場所」を未定！
  - ・ 外出先からの「帰宅ルートは知らない」が全体では25.5%。男女別でみると、女性は32.3%、男性は18.7%と女性が大きく上回る。87年ぶりに関東大震災クラスの大地震が発生したら…「埼玉県」と「千葉県」に住んでいる人の4割以上が「帰宅難民」になる恐れ！
  - ・ 相次ぐゲリラ豪雨被害！周辺の危険箇所や避難経路を実際に確認した人はわずか20人に1人
  - ・ 災害時に頼りたいのは「家族」「消防機関」「隣近所」、最も心配なことは「家族の安否」。でも、地域とのコミュニケーションも災害時に備えた家族の話し合いも不十分？

### 3. 地域別の防災意識

- 備えあれば憂いなし！引き続き「東海」は高い「震災意識」と「対策」で全国をリード！
- 震災意識が後退！？「甲信越・北陸」は不安が急落！
  - ・ 将来、大地震発生！「東海」地方はほぼ全員が予想し、「防災グッズの準備」は半数以上も
  - ・ 地震への不安は、「東海」「四国」が最も高く、新潟県中越沖地震（2007年7月）を経験した「甲信越・北陸」が昨年から15.9ポイントの大幅減少
  - ・ 9月1日「防災の日」の由来を「知っている」は「関東」6割、「全く知らない」は「中国」4割

## 対象者の属性

1. 調査対象

20～59歳の男性・女性

2. 調査地域

全国

3. 調査期間

2010年8月6日（金）～8月9日（月）

4. 調査方法

インターネット調査

5. 有効回答者数

1,133人

6. 回答者の内訳

（単位：人）

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	計
男性	144	134	144	144	566
女性	142	146	137	142	567
計	286	280	281	286	1,133

## 【もくじ】

### 1. 地震への不安と対策

#### (1)不安に感じる災害は？ (4ページ)

やっぱり「地震」が最も不安！ダントツの86.8%、2位は「集中豪雨・土砂災害等」

これまで増加基調が続いた「自然災害への不安」が減少に転じる！

#### (2)具体的な震災対策 (5ページ)

喉元過ぎれば熱さを忘れる？ 震災対策は「特に何もしていない」が半数近くと再びトップ！

「防災グッズの準備」をしている人は3人に1人！？

#### (3)防災グッズの中身と費用 (6ページ)

節約志向は防災グッズの費用にも波及？

平均費用は「7,306円」と前年比21%減！過去最大の減少！

#### (4)震災時に持って逃げたいもの (7ページ)

突然の震災！持って逃げたいものは「現金」「携帯電話」が7割超

経験者は「健康保険証」「身分証明書」「保険証券」も

### 2. 依然進まぬ防災対策

#### (1)帰宅ルートの認知度(全体・男女別) (8ページ)

“大地震が発生し、全交通機関はストップ！あなたは自宅まで帰れますか？”

4人に1人が「帰宅難民」の恐れ、女性は3人に1人で男性を大きく上回る！

#### (2)帰宅ルートの認知度(居住地域別) (9ページ)

首都圏直下型地震が発生したら、「埼玉・千葉」県民の4割以上が「帰り道がわからない」！？

#### (3)ハザードマップの認知度・自宅周辺の安全確認 (10ページ)

相次ぐゲリラ豪雨！ハザードマップを「知らない」「名前しか知らない」が8割強！

マンホールや側溝に落ちないように「危険箇所を確認し避難経路を決定」20人に1人

#### (4)地域とのコミュニケーション (11ページ)

災害時に頼りたい人は「家族」がトップ、続いて「消防機関」「隣近所」

「隣近所」を「頼りにしたい」が約半数、でも「ほとんど知らない」！？

#### (5)地震発生時に心配なこと、家族との集合場所や連絡手段 (12ページ)

やっぱり「家族の安否」が最も心配。だけど今年も8割が「連絡手段」「集合場所」を決めず！

### 3. 地域別の防災意識

#### (1)近い将来の大地震発生の可能性は？ (13ページ)

“地震大国ニッポン”「東海」をトップに、「関東」「東北」のほぼ全員が大地震発生を予想！

#### (2)自然災害に対する意識 (14ページ)

「東海」地方のほぼ全員が「地震に不安」

年月の経過とともに“意識”が薄れる？「甲信越・北陸」は「地震に不安」大幅減！

#### (3)「防災の日」を知っている？ (15ページ)

9月1日「防災の日」の由来、「知っている」「何となく知っている」が4人に3人

一方、20代の3人に1人は「全く知らない」、「中国」地方では4割も！

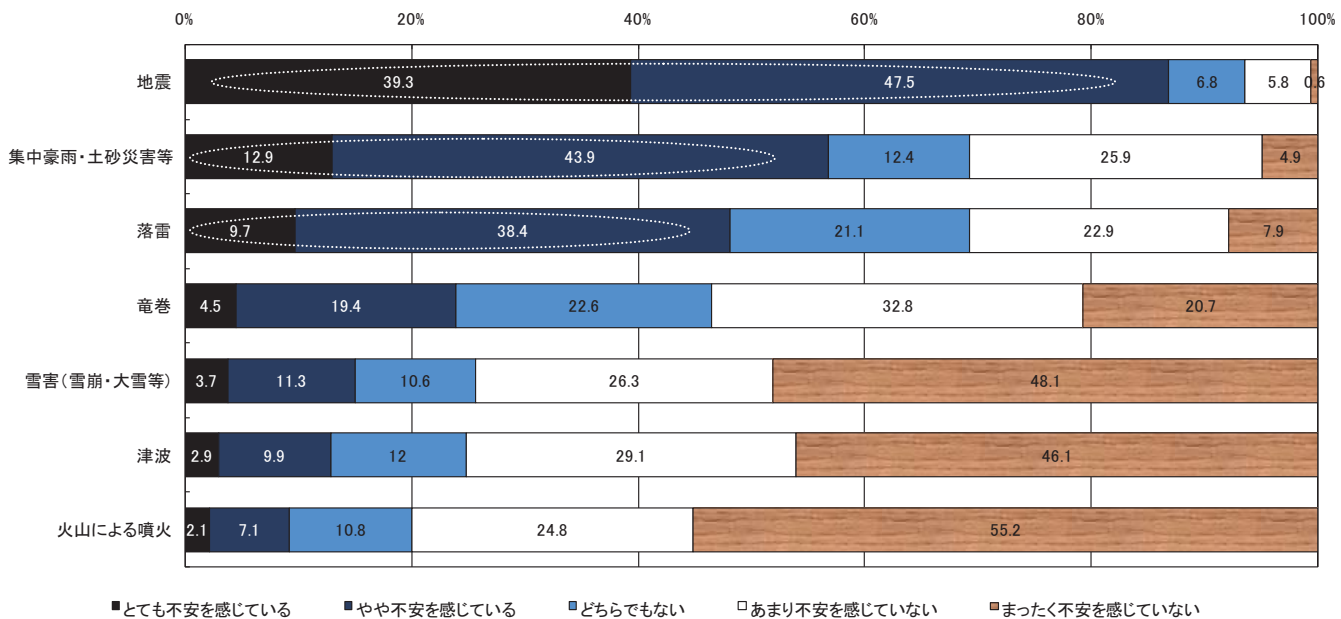
# 1. 地震への不安と対策

## (1) 不安に感じる災害は？

やっぱり「地震」が最も不安！ダントツの86.8%、2位は「集中豪雨・土砂災害等」  
 これまで増加基調が続いた「自然災害への不安」が減少に転じる！

- ・ 防災の日を前に、自然災害に対する意識を聞いてみました。
- ・ 最も不安に感じる自然災害は、今年も「地震」がトップ。86.8%の人が不安（「とても不安」＋「やや不安」）を感じ、他の自然災害を大きく引き離しています。
- ・ 第2位は「集中豪雨・土砂災害等」（同56.8%）が半数を超え、続いて第3位が「落雷」（同48.1%）と、不安に感じる自然災害トップ3は昨年と同じ結果でした。
- ・ 2007年の本調査開始以来、「地震」「集中豪雨・土砂災害等」「落雷」への不安は、年々高まってきましたが、今年は、「地震」が2.2ポイント、「集中豪雨・土砂災害等」が5.6ポイント、「落雷」が6.3ポイント、昨年より減少に転じました。
- ・ 今年は、新潟県中越沖地震（2007年7月）、岩手・宮城内陸地震（2008年6月）、中国・九州北部豪雨（2009年7月）等の大規模災害が発生していないため、不安感が後退したのでしょうか？

### Q. 不安に感じている自然災害は何ですか。（複数回答）



地震	回答者数	不安を感じている				不安を感じていない		
		不安を感じている計 (%)	とても不安を感じている (%)	やや不安を感じている (%)	どちらでもない (%)	あまり不安を感じていない (%)	まったく不安を感じていない (%)	不安を感じていない計 (%)
2010年 全体	1133人	86.8	39.3	47.5	6.8	5.8	0.6	6.4
2009年 全体	1138人	89.0	40.1	48.9	4.3	5.6	1.1	6.7

落雷	回答者数	不安を感じている				不安を感じていない		
		不安を感じている計 (%)	とても不安を感じている (%)	やや不安を感じている (%)	どちらでもない (%)	あまり不安を感じていない (%)	まったく不安を感じていない (%)	不安を感じていない計 (%)
2010年 全体	1133人	48.1	9.7	38.4	21.1	22.9	7.9	30.8
2009年 全体	1138人	54.4	10.7	43.7	19.1	18.0	8.5	26.5

集中豪雨・土砂災害等	回答者数	不安を感じている				不安を感じていない		
		不安を感じている計 (%)	とても不安を感じている (%)	やや不安を感じている (%)	どちらでもない (%)	あまり不安を感じていない (%)	まったく不安を感じていない (%)	不安を感じていない計 (%)
2010年 全体	1133人	56.8	12.9	43.9	12.4	25.9	4.9	30.8
2009年 全体	1138人	62.4	14.4	48.0	13.2	19.3	5.1	24.4

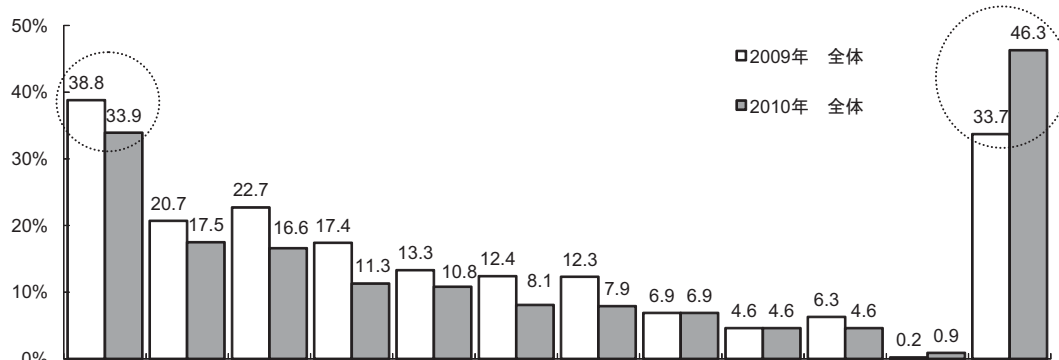
# 1. 地震への不安と対策

## (2) 具体的な震災対策

喉元過ぎれば熱さを忘れる？ 震災対策は「特に何もしていない」が半数近くと再びトップ！  
「防災グッズの準備」をしている人は3人に1人！？

- ・ 約9割の人が不安を感じる「地震」。そこで、震災対策への取組みについて聞いてみました。
- ・ 全体では、震災対策として「特に何もしていない」（46.3%）が半数近くにのぼり再びトップ。「防災グッズの準備」（33.9%）は2位に転落。昨年度は、度重なる震災や集中豪雨等の影響からか「特に何もしていない」が33.7%と何かしらの震災対策をとっていましたが、今年は再び一昨年度水準まで戻りました。
- ・ 「喉元過ぎれば熱さを忘れる」とのことわざに象徴されるように、大災害が起こった直後は防災への意識が高まる一方、時間の経過とともに、その意識が薄れていっているのかもしれない。
- ・ 世帯人数別でみると、1人暮らしは「特に何もしていない」が58.3%とそれ以外（44.8%）を大きく上回っています。また、年齢別では、20代は6割を超えています。
- ・ 居住地域別では、「東海」地域は「防災グッズの準備」（50.6%）が半数を超え、未対策者は30.1%と最も低いなど、全国のなかでも震災対策が進んでいることがうかがえます。

### Q. 震災対策として、何をしていますか。（複数回答）



	回答者数 (人)	非常用食料・飲料水等「防災グッズ」の準備 (%)	家具の固定・ガラス拡散対策の徹底 (%)	避難場所・避難ルートの確認 (%)	貴重品などをすぐ持ち出せるように準備 (%)	保険の見直し(地震保険・台風浸水向け保険) (%)	普段のご近所づきあい (%)	消火活動 (%)	職場や町内の防災訓練に積極的に参加 (%)	自宅の補修強化 (%)	防災マップ・ハザードマップ準備 (%)	その他 (%)	特に何もしていない (%)
2010年 全体	1133人	33.9	17.5	16.6	11.3	10.8	8.1	7.9	6.9	4.6	4.6	0.9	46.3
2009年 全体	1138人	38.8	20.7	22.7	17.4	13.3	12.4	12.3	6.9	4.6	6.3	0.2	33.7
2008年 全体	1199人	30.2	14.9	14.2	12.8	9.1	6.4	8.3	3.8	5.2	5.9	0.3	48.7
【性別】													
男性計	566人	30.6	15.9	16.6	9.9	8.8	6.9	7.6	7.4	4.6	4.6	1.1	47.7
女性計	567人	37.2	19.0	16.6	12.7	12.7	9.3	8.3	6.3	4.6	4.6	0.7	45.0
【年代別】													
20代	286人	22.4	9.8	11.2	9.1	2.4	2.8	3.5	2.4	1.7	2.1	1.0	63.3
30代	280人	32.1	12.5	12.9	12.1	12.9	7.1	5.4	6.4	7.1	3.6	0.0	49.6
40代	281人	44.1	23.5	23.1	10.7	12.1	11.4	10.7	7.8	5.0	5.0	1.8	34.2
50代	286人	37.1	24.1	19.2	13.3	15.7	11.2	12.2	10.8	4.5	7.7	0.7	38.1
【居住地】													
北海道	74人	16.2	8.1	14.9	10.8	10.8	2.7	12.2	2.7	1.4	6.8	0.0	63.5
東北	76人	25.0	17.1	11.8	9.2	14.5	3.9	5.3	5.3	2.6	3.9	1.3	50.0
関東	371人	44.5	20.8	18.1	10.2	10.5	8.1	10.2	7.3	4.0	5.1	0.5	42.6
甲信越・北陸	44人	29.5	6.8	6.8	20.5	9.1	6.8	9.1	4.5	6.8	4.5	2.3	45.5
東海	156人	50.6	31.4	23.7	13.5	12.8	9.0	9.0	9.0	8.3	4.5	0.0	30.1
近畿	238人	29.4	15.5	15.1	9.7	10.5	10.1	5.0	8.0	4.2	5.9	2.1	47.5
中国	59人	13.6	6.8	11.9	13.6	13.6	5.1	6.8	1.7	3.4	0.0	0.0	67.8
四国	22人	31.8	13.6	13.6	4.5	9.1	4.5	4.5	9.1	4.5	0.0	4.5	45.5
九州・沖縄	93人	11.8	6.5	16.1	14.0	5.4	12.9	4.3	7.5	5.4	2.2	0.0	55.9
【世帯人数別】													
1人暮らし	127人	23.6	11.0	9.4	15.7	7.9	3.9	3.9	7.9	0.0	3.9	0.8	58.3
1人暮らし以外	1006人	35.2	18.3	17.5	10.7	11.1	8.6	8.4	6.8	5.2	4.7	0.9	44.8

## 1. 地震への不安と対策

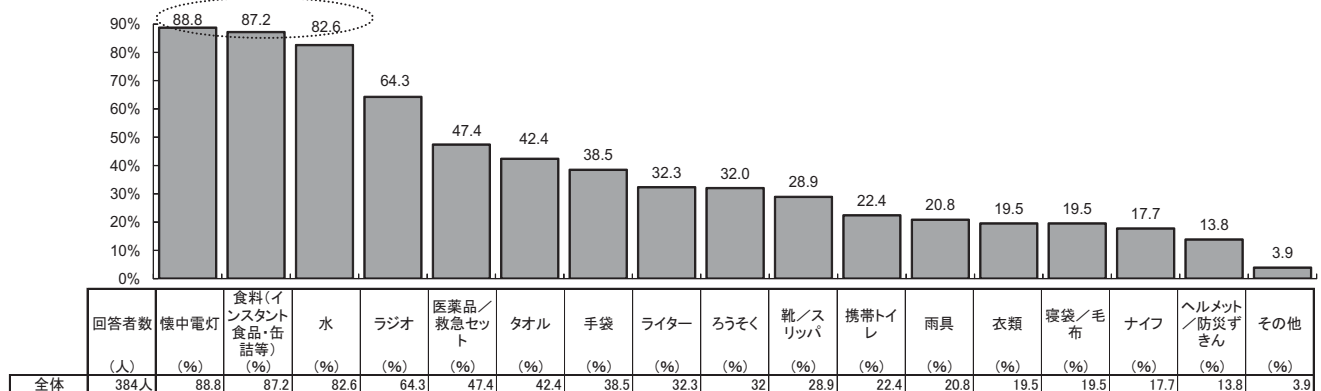
### (3) 防災グッズの中身と費用

#### 節約志向は防災グッズの費用にも波及？

平均費用は「7,306円」と前年比21%減！過去最大の減少！

- ・ 5ページで、震災対策として防災グッズを準備していると回答した人に、防災グッズの中身と費用について聞いてみました。
- ・ 防災グッズの中身は「懐中電灯」がトップ、続いて「食料」、「水」が8割を超えています。
- ・ また、防災グッズの平均費用は「7,306円」と、過去3年間維持していた9,000円を大きく割り込み、昨年から約2,000円近く減少しました。最も大切な家族と自分の命を守るために、防災グッズは必需品です。節約することなく、十分に備えて欲しいですね。
- ・ いざという時のために、せめて水の準備だけは必要です。そこで、全員に準備している非常用飲料水の量について聞いてみました。
- ・ 結果は、非常用飲料水の準備量は1人あたり「1リットル以下」(51.7%)が過半数、「0リットル」(38.0%)が3人に1人となりました。非常用飲料水は1日当たり3リットル、非常時の食糧は3日分の確保が必要とされていますが、まだまだ備えとしては決して十分とはいえないようです。

#### Q. 防災グッズの中身は何ですか。(複数回答)



※震災対策として防災グッズを用意していると回答したベース

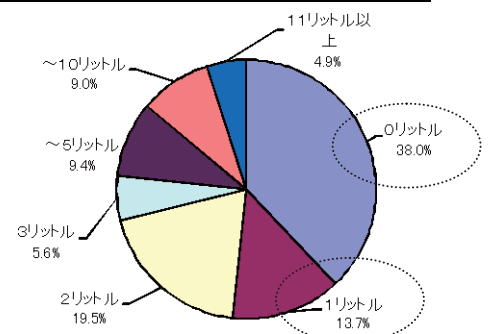
#### Q. 防災グッズにかかる費用はいくらですか。

	金額(平均)
2010年	7,306円
2009年	9,243円
2008年	9,367円
2007年	9,963円

※震災対策として防災グッズを用意していると回答した人ベース

#### Q. 非常用飲料水は、一人あたり

#### 何リットル準備していますか。





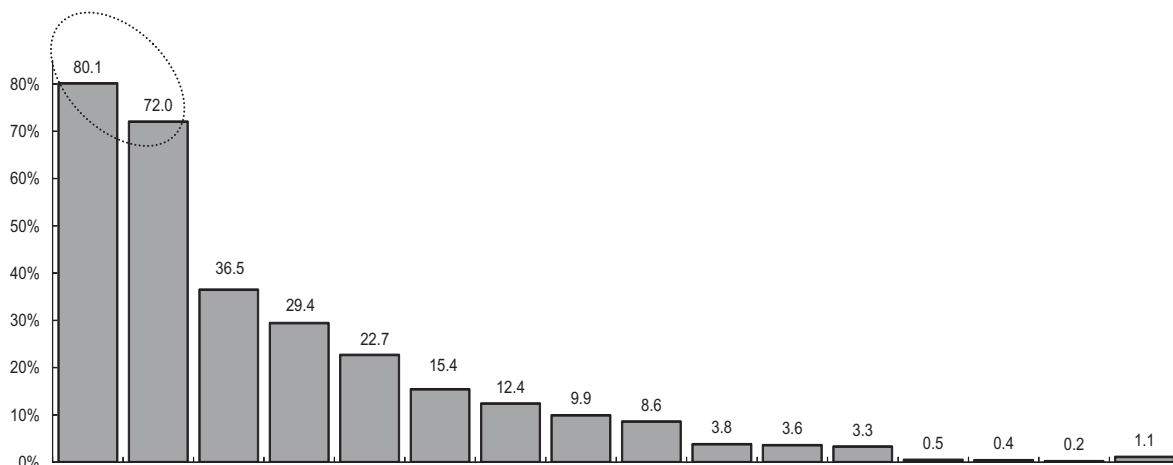
# 1. 地震への不安と対策

## (4) 震災時に持って逃げたいもの

**突然の震災！持って逃げたいものは「現金」「携帯電話」が7割超  
経験者は「健康保険証」「身分証明書」「保険証券」も**

- ・ 地震が発生したとき、大切なものを運び出そうというのは自然な行動です。そこで、地震発生時に「持って逃げたいもの」について聞いてみました。
- ・ やはり、先立つものは「お金」。「水」「食料」よりも、第1位は「現金・預金通帳・印鑑・カード」(80.1%)で、続いて「携帯電話」(72.0%)。「携帯電話」については、その普及率を反映し、2007年(61.1%)から最も増加しています。「携帯電話」の機能の向上の影響でしょうか、「ラジオ」(12.4%)は大きく減少しています。
- ・ また、震災経験者(震度5以上)や水害経験者(集中豪雨等で自宅や周辺が浸水)が持って逃げたいものをみると、全体平均を上回っている共通のものは、「健康保険証」、「身分証明書」、「保険証券」でした。混沌とした避難生活で、身分証明書がないと安否確認や預金引き出し等の手続きがスムーズにできずに苦労された経験からなのでしょうか。

### Q. 震災発生時に持って逃げたいものは何ですか(複数回答)



回答者数	現金／預金通帳／印鑑／カード (%)	携帯電話 (%)	水 (%)	食料 (%)	健康保険証 (%)	身分証明書 (%)	ラジオ (%)	ペット (%)	懐中電灯／ろうそく (%)	アルバム(家族の写真) (%)	貴金属 (%)	保険証券 (%)	骨董品 (%)	位牌 (%)	日記 (%)	その他 (%)
2010年 全体 1133人	80.1	72.0	36.5	29.4	22.7	15.4	12.4	9.9	8.6	3.8	3.6	3.3	0.5	0.4	0.2	1.1
2007年 全体 1211人	78.7	61.1	32.5	25.9	24.9	17.1	21.5	10.8	9.9	4.2	5.3	5.0	0.9	0.9	-	1.2
震災経験者 388人	79.1	70.9	35.8	27.8	28.1	15.7	11.3	9.5	9.3	2.6	3.4	4.4	0.5	0.8	0.5	0.3
水害経験者 136人	79.4	68.4	31.6	34.6	22.8	16.2	16.9	11.8	6.6	3.7	2.2	3.7	2.2	-	-	-

## 2. 依然進まぬ防災対策

### (1) 帰宅ルートの認知度（全体・男女別）

“大地震が発生し、全交通機関はストップ！あなたは自宅まで帰れますか？”  
4人に1人が「帰宅難民」の恐れ、女性は3人に1人で男性を大きく上回る！

- ・ いつ起こるかわからない地震。もし、平日昼間に大地震が発生し、交通機関がストップしたら、みなさん自宅まで帰ることができますか？
- ・ そこで、自宅までの帰宅ルートの認知度について聞いてみました。
- ・ 全体では、なんと4人に1人が帰宅ルートを知らない（「全く知らない」＋「あまり知らない」と回答（25.5%）しています。
- ・ これを男女別でみると、女性（32.3%）が男性（18.7%）を約13ポイント上回っています。この結果からわかるように、女性は自宅までの道順を思い浮かべることが不得手なようです。
- ・ 年齢別でみると、女性の場合が顕著ですが、年齢が低くなるにつれて、知らない割合が高くなり、20代女性は4割が自宅に帰れない可能性があります。

**Q. もし大地震が発生し交通機関がマヒした場合、外出先からの帰宅ルートを知っていますか。**  
（単一回答）

	回答者数	帰宅ルートを知っている 計			帰宅ルートは知らない 計		
		(%)	詳しく知っている (%)	だいたい知っている (%)	(%)	あまり知らない (%)	全く知らない (%)
2010年 全体	1133人	74.5	30.6	43.9	25.5	17.4	8.1
【性別】							
男性計	566人	81.3	36.6	47.7	18.7	14.5	4.2
女性計	567人	67.7	24.7	43.0	32.3	20.3	12.0
【年齢別】							
男性20代	144人	70.8	27.8	43.1	29.2	23.6	5.6
男性30代	134人	85.8	41.0	44.8	14.2	11.2	3.0
男性40代	144人	81.9	38.9	43.1	18.1	13.9	4.2
男性50代	144人	86.8	38.9	47.9	13.2	9.0	4.2
女性20代	142人	60.6	24.6	35.9	39.4	21.1	18.3
女性30代	146人	65.1	19.9	45.2	34.9	21.2	13.7
女性40代	137人	70.1	29.9	40.1	29.9	22.6	7.3
女性50代	142人	75.4	24.6	50.7	24.6	16.2	8.5



## 2. 依然進まぬ防災対策

### (2) 帰宅ルートの認知度（居住地域別）

首都圏直下型地震が発生したら、「埼玉・千葉」県民の4割以上が「帰り道がわからない」！？

- ・ 続いて、8ページの同じ質問を居住地域別でも聞いてみました。
- ・ 帰宅ルートを知らない地域は、「関東」が最も高く31.0%、「甲信越・北陸」と「四国」が最も低く13.6%でした。
- ・ 「関東」地方のなかでも人口が集中する首都圏でみると、「埼玉県」（43.5%）と「千葉県」（42.2%）が圧倒的に高く、しかも、「千葉県」は、「全く知らない」が22.2%と他県を大きく引き離しています。これは、埼玉県や千葉県に在住で都内に通勤・通学する、いわゆる「埼玉都民・千葉都民」の影響でしょうか。
- ・ いざ、大地震が発生すると、道路には亀裂が入り、建物の倒壊や大きな火災が発生するため想定していたルートもそう簡単には歩いて帰ることはできないそうです。一度、いくつかの道順を地図で確認してみたらいかがでしょうか。

Q. もし大地震が発生し交通機関がマヒした場合、外出先からの帰宅ルートを知っていますか。

（単一回答）

	回答者数	帰宅ルートを知っている 計			帰宅ルートは知らない 計		
		(%)	詳しく知っている (%)	だいたい知っている (%)	(%)	あまり知らない (%)	全く知らない (%)
2010年 全体	1133人	74.5	30.6	43.9	25.5	17.4	8.1
【居住地】							
北海道	74人	81.1	50.0	31.1	18.9	13.5	5.4
東北	76人	80.3	35.5	44.7	19.7	14.5	5.3
関東	371人	69.0	23.5	45.6	31.0	20.5	10.5
甲信越・北陸	44人	86.4	43.2	43.2	13.6	11.4	2.3
東海	156人	76.3	31.4	44.9	23.7	16.7	7.1
近畿	238人	72.3	28.2	44.1	27.7	20.6	7.1
中国	59人	78.0	33.9	44.1	22.0	13.6	8.5
四国	22人	86.4	59.1	27.3	13.6	13.6	-
九州・沖縄	93人	78.5	30.1	48.4	21.5	9.7	11.8
【主な県別】							
東京	160人	75.0	23.1	51.9	25.0	18.1	6.9
神奈川	80人	68.8	21.3	47.5	31.3	22.5	8.8
埼玉	46人	56.5	15.2	41.3	43.5	32.6	10.9
千葉	45人	57.7	13.3	44.4	42.2	20.0	22.2
愛知	83人	80.7	32.5	48.2	19.3	15.7	3.6
大阪	111人	71.2	27.0	44.1	28.8	22.5	6.3
京都	37人	83.8	29.7	54.1	16.2	10.8	5.4
兵庫	34人	76.5	38.2	38.2	23.5	14.7	8.8
福岡	55人	78.2	21.8	56.4	21.8	9.1	12.7

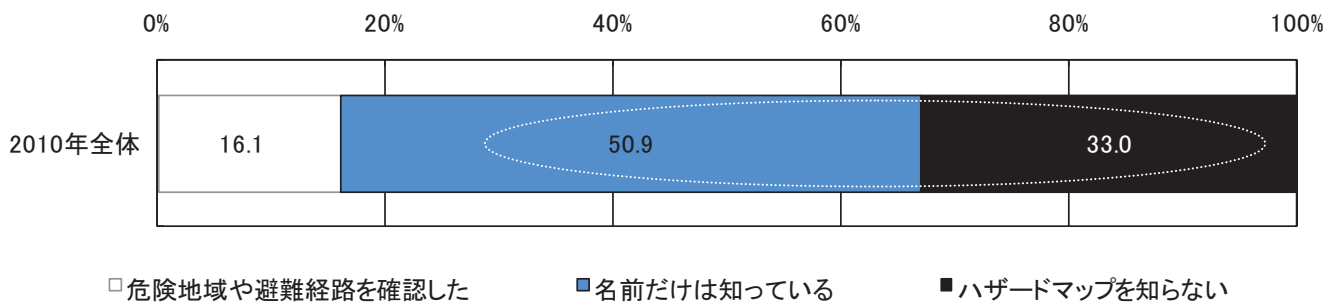
## 2. 依然進まぬ防災対策

### (3) ハザードマップの認知度・自宅周辺の安全確認

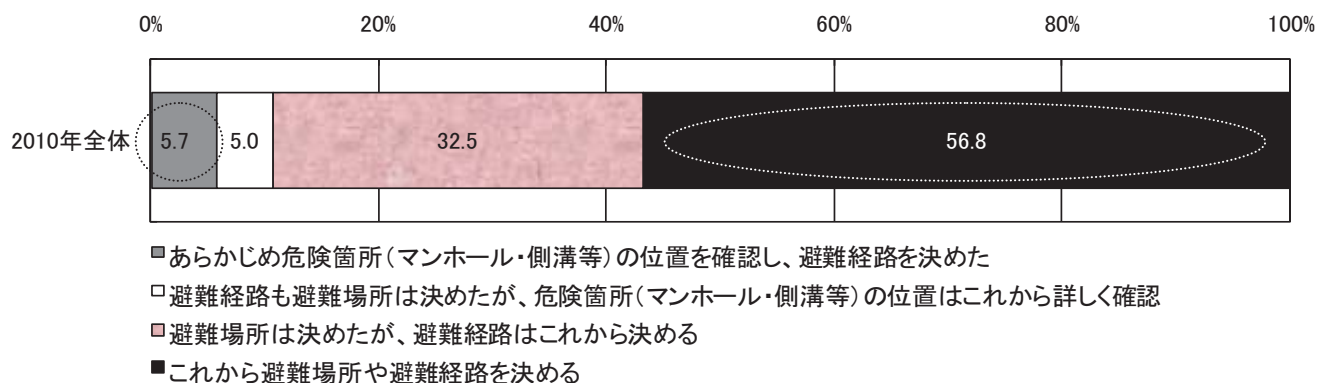
相次ぐゲリラ豪雨！ハザードマップを「知らない」「名前しか知らない」が8割強！  
マンホールや側溝に落ちないように「危険箇所を確認し避難経路を決定」20人に1人

- ・ 近年、「ゲリラ豪雨」と言われる局地的な集中豪雨により、浸水被害が相次いで発生しています。そこで、水害対策としても有効なハザードマップの認知度や活用状況について聞いてみました。
- ・ ハザードマップを知らない（「ハザードマップを知らない」＋「名前だけは知っている」）人は全体の83.9%と、ハザードマップの認知度はまだまだ低いことがわかります。
- ・ ハザードマップは知らなくても、身近な対策として、自宅から指定避難場所までの安全な避難経路を普段から決めているかを聞いてみました。
- ・ 実際、「あらかじめ危険箇所の位置を確認し、避難経路を決めた」人はわずか5.7%。最多は「これから避難場所や避難経路を決める」（56.8%）と、まだ何も決めていない人が約6割にのぼります。
- ・ 指定避難場所は安全確保以外においても、食事の配給が受けられるなどの重要な場所です。また、ふたの外れたマンホールや側溝等への転落事故を防ぐためにも、自宅周辺の危険地域や指定避難場所への安全避難経路を事前に確認しておくといいですね。

#### Q. ハザードマップで自宅周辺の危険地域や避難経路を確認したことがありますか。(単一回答)



#### Q. 自宅から指定避難場所までの避難経路を決めていますか。(単一回答)



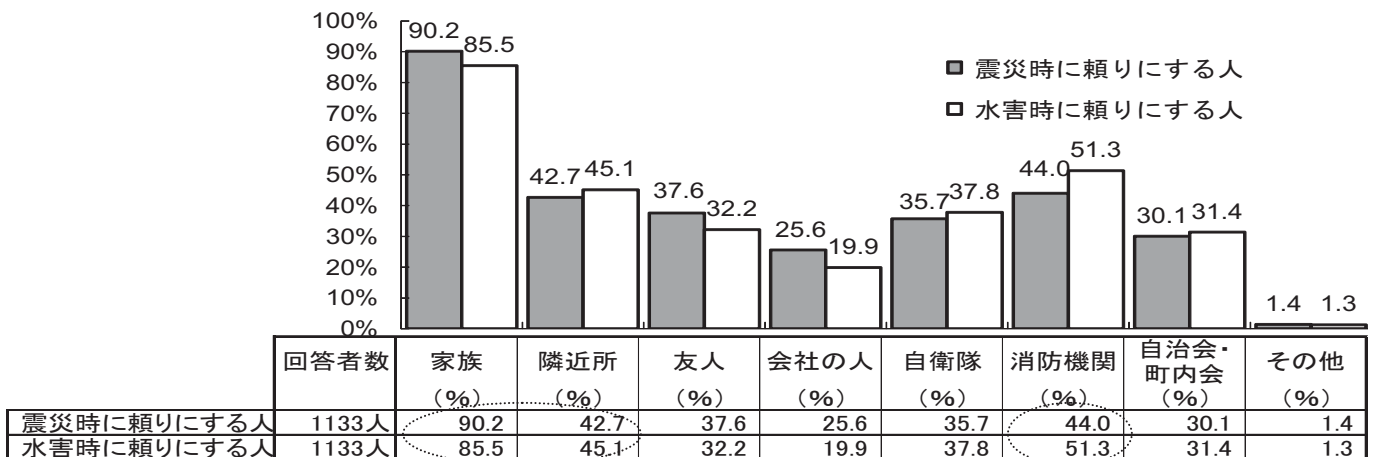
## 2. 依然進まぬ防災対策

### (4) 地域とのコミュニケーション

災害時に頼りたい人は「家族」がトップ、続いて「消防機関」「隣近所」  
「隣近所」を「頼りにしたい」が約半数、でも「ほとんど知らない」！？

- ・ 次に、災害時に一番誰を頼りにするのかを聞いてみました。
- ・ 震災、水害時とも、圧倒的にトップは「家族」、続いて「消防機関」、「隣近所の人」となりました。大規模災害時には、消防機関等の救助も遅れるため、隣近所の助け合いが重要といわれています。本調査でも、約半数の人が「隣近所」を頼りにしていることがわかりました。
- ・ そこで、皆様のご近所との付き合いについて聞いてみました。
- ・ 全体では、あまり付き合いがないと思われる（「顔があえば挨拶くらいはする」＋「ほとんど付き合いがない」）人は、49.0%。隣近所を頼りにしながら、半数近くは隣近所とのお付き合いがあまりないという実態が浮き彫りになりました。また、世帯人数別でみると、1人暮らしの人（81.1%）は、あまりお付き合いがありません。
- ・ 昔から「遠くの親戚より近くの他人」と言われます。「防災の日」を機に、ご近所との関わり方について考えてみてはいかがでしょうか。

#### Q. 震災・水害時に頼りにする人は誰ですか。（複数回答）



#### Q. ご近所との付き合いはどのくらいありますか。（単一回答）

	回答者数	困ったときお互い相談したり助け合ったりする (%)	留守をするときに声をかけあうなど親しく話をする (%)	たまに立ち話や世間話をする (%)	顔があえば挨拶くらいはする(名前を知っている) (%)	ほとんどつきあいがいい(名前も知らない) (%)
2010年 全体	1133人	12.4	10.6	28.1	34.8	14.2
【性別】						
男性	566人	11.0	9.9	23.7	41.3	14.1
女性	567人	13.8	11.3	32.5	28.2	14.3
【年代別】						
20代	286人	9.4	6.3	18.2	45.5	20.6
30代	280人	12.5	9.3	27.1	31.4	19.6
40代	281人	14.9	14.2	29.5	31.3	10.0
50代	286人	12.6	12.6	37.4	30.8	6.6
【世帯人数別】						
1人暮らし	127人	5.5	3.9	9.4	24.4	56.7
1人暮らし以外	1006人	13.2	11.4	30.4	36.1	8.8

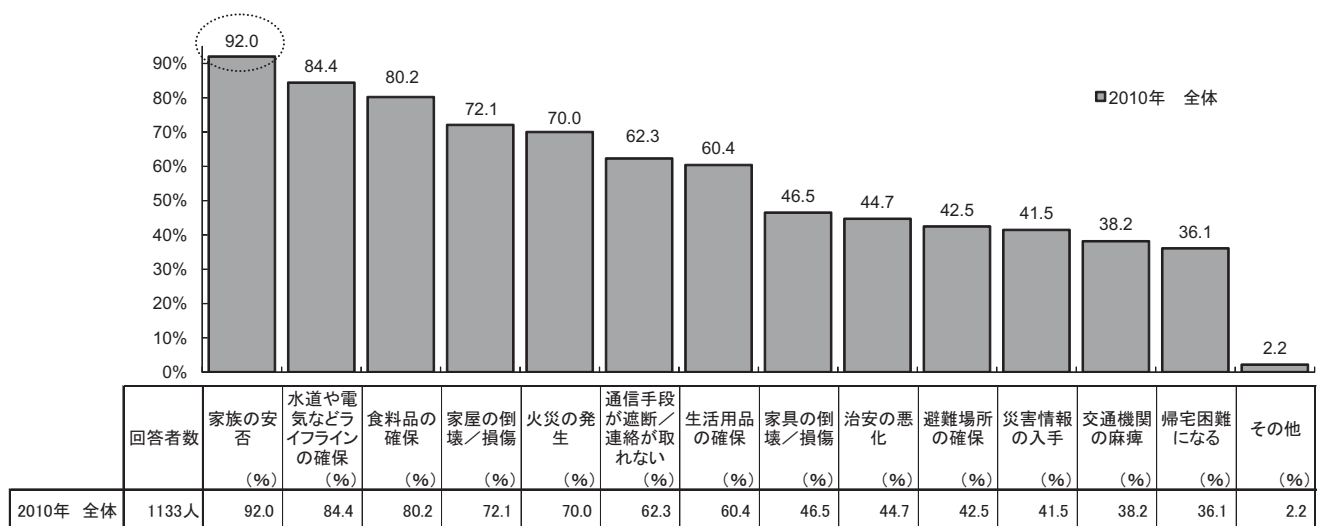
## 2. 依然進まぬ防災対策

### (5) 地震発生時に心配なことと、家族との集合場所や連絡手段

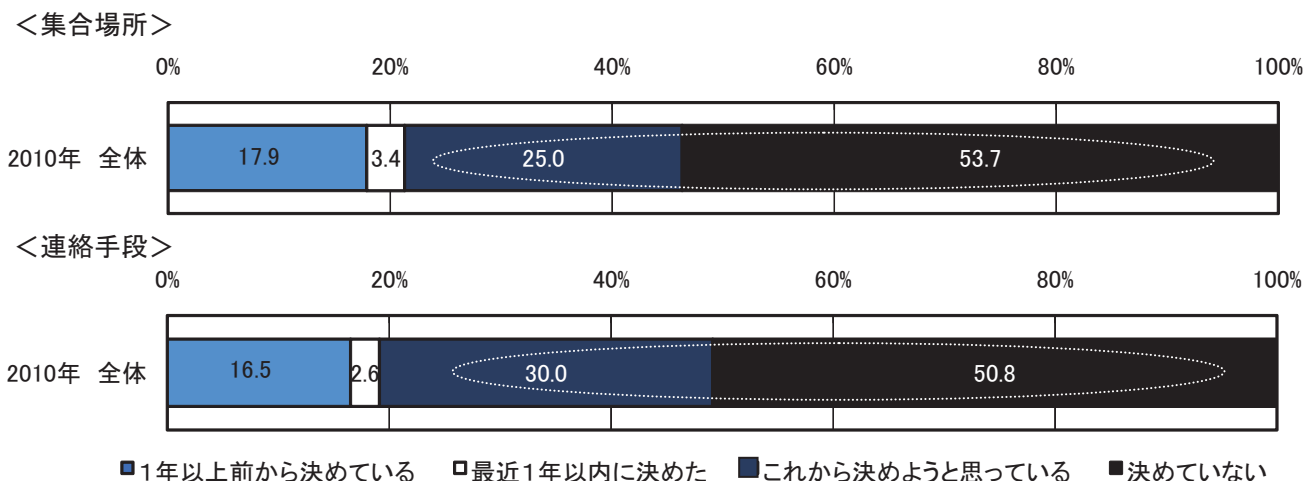
やっぱり「家族の安否」が最も心配。だけど今年も8割が「連絡手段」「集合場所」を決めず！

- ・ もし大地震が発生したら、みなさんは一番何を心配しますか？
- ・ 全体では、今年も「家族の安否」（92.0%）がトップとなり、大切な家族への思いはいつも高まっています。続いて、生活に欠かせない「水道や電気などのライフラインの確保」（84.4%）、「食料品の確保」（80.2%）が8割を超えています。
- ・ そこで、家族との「集合場所」や「連絡手段」を決めているかについて聞いてみました。
- ・ 「集合場所」「連絡手段」は約8割が決めておらず（「決めていない」＋「これから決める」）、家族を思う気持ちと対策との間の大きなギャップはなかなか改善されませんね。

#### Q. 震災時に心配なことは何ですか。（複数回答）



#### Q. 震災時、家族との集合場所と連絡手段を決めていますか（単一回答）



### 3. 地域別の防災意識

#### (1) 近い将来の大地震発生の可能性は？

“地震大国ニッポン”「東海」をトップに、「関東」「東北」のほぼ全員が大地震発生を予想！

- ・ 次に、近い将来の大地震発生の可能性について聞いてみました。
- ・ 全体では、91.6%の人が「将来、大地震が発生する」、そのうち16.6%の人が「5年以内に大地震が発生する」と予想しています。
- ・ 居住地域別でみると、「将来、大地震が発生する」と回答した人は、「東海」(97.4%)がトップ、続いて「関東」「東北」「四国」「近畿」が9割を超えており、この地域に住むほぼ全員の人が「将来、大地震が発生する」と予想しています。
- ・ 特に、「東北」「東海」は、3割以上の人が「5年以内に発生する」と回答し、強い不安を感じています。
- ・ 一方、「中国」「北海道」「九州・沖縄」では、約2割の人が「自分の地域では大地震は発生しない」と予想しています。

#### Q. 近い将来に大地震が発生すると思いますか。(単一回答)

	回答者数	発生すると思う 計					近い将来ではないが、いずれは発生すると思う (%)	自分の地域では発生しないと思う (%)
		(%)	5年以内に発生すると思う 計 (%)	1年以内に発生すると思う (%)	3年以内に発生すると思う (%)	5年以内に発生すると思う (%)		
2010年 全体	1133人	91.6	16.6	1.1	6.4	9.1	75.0	8.4
【居住地域別】								
北海道	74人	77.0	4.1	0.0	2.7	1.4	73.0	23.0
東北	76人	96.1	31.6	3.9	15.8	11.8	64.5	3.9
関東	371人	96.5	16.2	0.8	7.0	8.4	80.3	3.5
甲信越・北陸	44人	84.1	18.2	2.3	6.8	9.1	65.9	15.9
東海	156人	97.4	30.8	1.9	8.3	20.5	66.7	2.6
近畿	238人	92.4	12.6	0.0	5.0	7.6	79.8	7.6
中国	59人	74.6	8.5	0.0	3.4	5.1	66.1	25.4
四国	22人	95.5	9.1	0.0	4.5	4.5	86.4	4.5
九州・沖縄	93人	81.7	8.6	3.2	1.1	4.3	73.1	18.3

### 3. 地域別の防災意識

#### (2) 自然災害に対する意識

「東海」地方のほぼ全員が「地震に不安」  
 年月の経過とともに“意識”が薄れる？「甲信越・北陸」は「地震に不安」大幅減！

- ・ 続いて、4ページの地震を含めた自然災害に対する意識を地域別でみてみました。
- ・ 居住地域別で「地震」に対する不安（「とても不安」＋「やや不安」）をみてみると、トップは「東海」（95.5%）、「四国」（95.5%）。特に「東海」は、昨年も2位でしたが、引き続き強い不安を感じています。一方、昨年トップだった「甲信越・北陸」（81.8%）は、「地震」に対する不安が昨年から15.9ポイント減少するなど、3年前に大規模地震が起こった地域でも、年月が経過すると意識が薄れてくるのでしょうか。
- ・ また、「集中豪雨・土砂災害等」の不安のトップは「甲信越・北陸」（75.0%）。続いて、中国・九州北部豪雨（2009年7月）を経験した「九州・沖縄」（74.2%）、「中国」（64.4%）となっています。

#### Q. 不安に感じている自然災害は何ですか。

地震									
10年					09年				
順位	不安計	%	とても不安	%	順位	不安計	%	とても不安	%
1	東海	95.5	東北	48.7	1	甲信越・北陸	97.7	東北	51.5
1	四国	95.5	東海	47.4	2	東海	94.2	東海	45.0
3	関東	87.9	関東	43.7	3	近畿	91.1	関東	42.3
4	東北	86.8	甲信越・北陸	38.6	4	四国	90.3	甲信越・北陸	39.5
5	近畿	86.6	近畿	37.4	5	関東	89.4	近畿	39.3
6	甲信越・北陸	81.8	四国	31.8	6	九州・沖縄	86.8	四国	35.5
7	九州・沖縄	81.7	中国	28.8	7	東北	83.3	中国	34.5
8	北海道	79.7	北海道	27.0	8	中国	81.8	九州・沖縄	26.5
9	中国	74.6	九州・沖縄	23.7	9	北海道	75	北海道	23.1

台風(暴風/大雨/洪水)									
10年					09年				
順位	不安計	%	とても不安	%	順位	不安計	%	とても不安	%
1	甲信越・北陸	75.0	中国	25.4	1	甲信越・北陸	74.4	中国	25.5
2	九州・沖縄	74.2	甲信越・北陸	20.5	2	中国	70.9	東海	22.5
3	中国	64.4	東海	14.1	3	九州・沖縄	70.6	甲信越・北陸	18.6
4	東海	59.0	九州・沖縄	14.0	4	東海	68.3	九州・沖縄	14.7
5	関東	54.7	北海道	13.5	5	関東	60.9	近畿	13.6
6	北海道	52.7	東北	13.2	6	近畿	59.8	関東	12.3
7	東北	52.6	関東	11.6	7	北海道	57.7	東北	12.1
8	四国	50.0	近畿	9.2	8	四国	54.8	四国	9.7
9	近畿	49.6	四国	9.1	9	東北	54.5	北海道	9.6



### 3. 地域別の防災意識

#### (3) 「防災の日」を知っている？

9月1日「防災の日」の由来、「知っている」「何となく知っている」が4人に3人一方、20代の3人に1人は「全く知らない」、「中国」地方では4割も！

- ・ 今回の調査は、9月1日の「防災の日」を前に震災等に対する意識を聞いたものです。
- ・ 「防災の日」は、1923年（大正12年）の9月1日に起きた関東大震災の教訓を忘れないという意味と、この時期に多い台風への心構えの意味も含めて1960年（昭和35年）に制定されました。そこで、「防災の日」についてどの程度知っているか聞いてみました。
- ・ 全体では、この由来を「知っている」人は、約半数の48.4%。続いて、「何となく知っていた（関東大震災の発生した日は知っているが、由来までは…）」人は26.6%、「全く知らない」人は25.1%となっています。
- ・ 居住地域別でみると、「知っている」が高い地域は、「関東」（59.8%）と「東海」（55.8%）が過半数。一方、台風などの自然災害の多い西日本においては認知度が低く、「中国」、「九州・沖縄」、「近畿」地方は3人に1人の人が「全く知らない」と回答しています。
- ・ また、年齢別にみると、年齢が低くなるにつれて「全く知らない」が高くなり、20代男性は33.3%、女性は40.1%と、20代全体の3人に1人が全く知りません。
- ・ 関東大震災から87年が経過しましたが、年月が経つにつれて、「防災の日」に対する意識も風化していくのでしょうか。

#### Q. 「防災の日」が9月1日に制定された由来について知っていますか。（単一回答）

